

【県内教育動向】

愛知県内におけるアクティブ・ラーニング
研究事情

愛知県立小牧南高等学校長

小塩 卓哉

中央教育審議会が改訂の基本方針が決定して以来、次期学習指導要領の中で「アクティブ・ラーニング」（AL）が何かと話題となっている。「何を知っているか」から、「何ができるようになるのか」が重視されたことで、その実現のための効果的な学習方法としてALが注目され始めたのである。小・中学校では、かなりALが取り入れられているが、高等学校ではまさに本格的導入であり、現場では不安もあるだろう。実際筆者の勤務校の所在する小牧市では小・中学校が、「学び合う学び」に市を挙げて取り組んでおり、高等学校に進学してからの継続性を問題とする声も聞こえてくる。

次期学習指導要領が、昨年十二月に答申され、高校の現場はまさに待ったなしだが、全国の中で愛知県の状況を考えた場合、いくつかの研究先進校が存在していることは実に力強いことである。ここでは、県内の研究状況について簡単に紹介してみたい。

まず紹介するのは、「高等学校における『多様な学習成果の評価手法に関する調査研究』」である。この研究は、平成二十五年に文部科学省から愛知県教育委員会が受託し三年計画で始まったもので、総合教育センターと研究校五校との共同研究である。五校は惟信高校（英語）、一宮南高校（理科）、日進西高校（国語）、吉良高校（地理歴史・公民）、蒲郡高校（数学）であり、大学等の学識経験者の指導のもとにパフォーマンス課題や、ルーブリックを用いた評価方法について研究が進められたので、ALに取り組むうえで大変参考になる。総合教育センターのホームページからその報告書の入手が可能である。

加茂丘高校も平成二十六・二十七度に、文部科学省の指定を受け「課題解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」の研究を行った。「授業改善」「地域連携」「キャリア教育」を三本柱に、個人レベルの指導を組織化することで成果を上げている。教科の汎用性を高める上で貴重な参考例となる。

三つ目は、岡崎西高校が平成二十七、二十八年度に、国立教育政策研究所の指定校として進めている「論理的思考力と表現力の育成を目指した各教科における指導と評価の工夫改善～アクティブ・ラーニングの活用による体系的な指導～」の研究である。国語・数学・英語を中心に行っている。

本年度からは、県の研究指定校として、小牧南高校、東海南高校、幸田高校、碧南高校の四校がALの研究を開始しているが、県内では先行研究を踏まえつつ各校で実践が積み重ねられているので、ALの研究水準は全国的に見てもかなり進捗していると言える。これからALを導入しようという学校にとって、そのような先行実践は、県内の事情に即しているだけに、実に有効であると言えるだろう。

「Opinion」平成 29 年 3 月 1 日